

受保連NEWS 第6号

一般社団法人受療者医療保険学術連合会広報誌

2017年8月8日 発行

受保連の「立場を超えた草の根活動」芽吹きと成長のために

受保連では、国民が真に必要とする医療サービスを適切な負担でアクセス可能となることを目指し、医療の価値について経済的視点を含めながら検討しています。そして、多様な立場の者同志が集い、共に学び、日本の公的医療保険制度の存続に向けた本質的な議論を交わし発信する場として受保連が機能すべく、地道な活動を続けてまいりました。先日、一般社団法人日本

新聞協会の機関誌『新聞研究』2017年7月号において「医療制度改革と報道」の特集が組まれ、受療者と医療者が問題を共有する受保連の取り組みについて寄稿依頼があり、田倉智之氏（受保連理事）の記事が掲載されました。受保連の活動が、社会の中で少しずつ芽吹いてきたと感じられます。また、受保連の今後の活動についても示唆が得られましたのでご紹介します。

受保連の活動背景にある社会情勢と受療者・医療者の意識の変化

受保連NEWSでも度々紹介してきましたが、日本の国民総生産の成長が停滞するなか、国民医療費は増加の一途をたどり、我が国が他国に誇る国民皆保険制度の存続が危ぶまれています。

前述の特集記事の中で、田倉氏は「国民皆保険制度の持続的な発展を促していくためには、診療サービスの生産性の向上を進め、限られた医療資源を有効活用する仕組みを診療報酬制度に導入し、活用することが不可欠」であり、「限られた医療資源を有効活用しながら、患者幸福の最大化を図ることの意義は、医療者においても広くコンセンサスが得られつつあると推察され

る」と述べています。また、受保連が2013年に実施した調査からは、受療者が「できるだけ自己負担を抑えたい」と思う一方で「公的医療保険制度を存続させるためには何らかの自己負担増加が必要である」という意識の中で気持ちが揺れ動くさまが見られました。

これまでは、受療者の利益が最大化となるように努めてきた医療者と受療者という関係が成り立っていました。しかし、社会や経済の状況を鑑みながら医療サービスの給付と負担のバランスを考慮し、全体最適化となるように努めることが望まれつつある中で、今後はその関係性にも変化が生じる可能性があります。

受保連が国民に発信する際に意識すべきことは何か

日本の医療制度に関わる様々な議論について、田倉氏は受保連の活動を通じて、次の点を指摘しています。「立場や過去の経験によって医療制度の在り方に対する視線は様々である。特に、具体的な受益と負担については、個人または団体によって考え方が異なる場合が多い状況がある。しかしながら、医療のあるべき姿に対する合意形成は難しく、正解は一つではないということは、受保連の中でコンセンサスを得られつつある。」

受保連の活動は、過去にも幾度か報道されたことが

あります。その際、調査結果などで得られた数字が、読者に強いインパクトを与えることを実感しました。それと同時に、数字には表れない、統計的には見過ごされがちな部分にも、当事者が抱える実態が色濃く出ている可能性があることも学びました。今後、受保連の草の根的な活動をより発展させ、医療制度に関わる議論を活性化し、その様子や関連する知見を国民に伝えていく中で、定量的・定性的な分析を交えながら、公正な目線で情報を発信することの重要性が示唆されました。

活動報告

平成28年度受保連臨時総会・第8回セミナーの開催

日時：2017年3月4日（土）14:00-14:30 総会 14:30-16:30 セミナー

場所：A P 東京八重洲通り 12階 会議室

臨時総会では、平成27年度の事業・決算報告および平成28年度の事業・予算計画について確認が行われた後、定款および定款細則の変更の提案がなされました。また、新任の理事や事務局長のご紹介に

続き、受保連の事務所移転についてその必要性和移転先選択の根拠を示しながら説明が行われました。

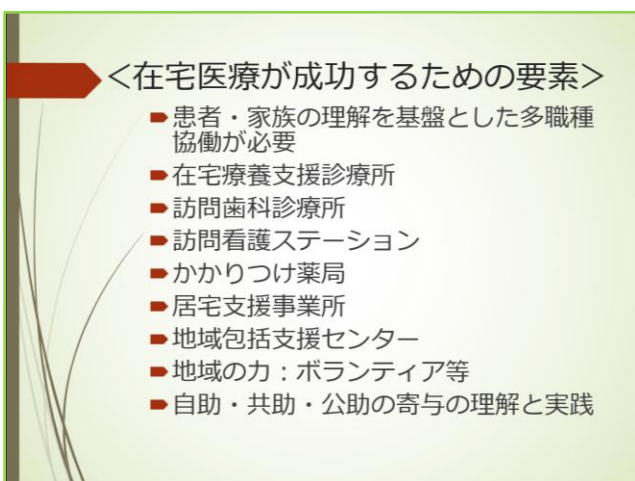
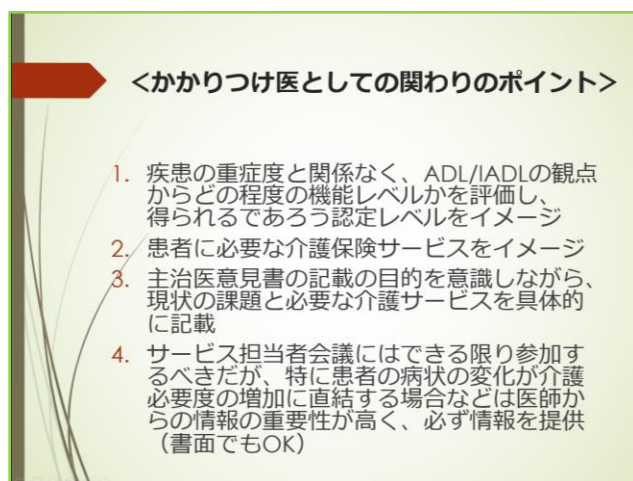
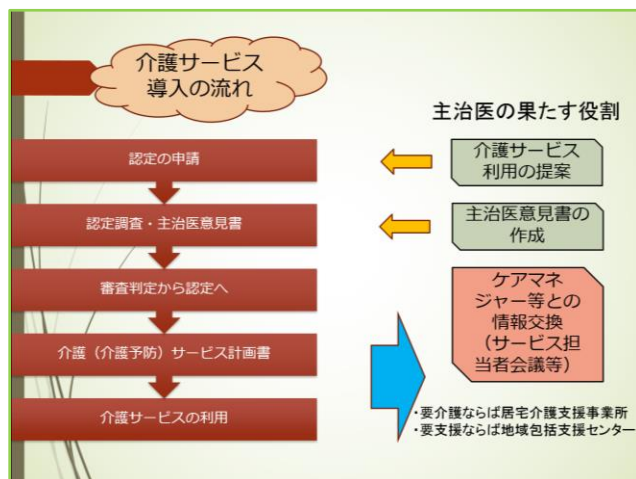
臨時総会の後に行われた第8回セミナーでは、2名の方より話題提供をしていただきました。

1. 在宅医療の経済（未来のコストを考える）－医療者の負担、患者・家族の負担

清水 恵一郎 氏（阿部医院、臨床内科医会副会長）

住み慣れた地域で生活し続けられるよう、外来診療から医療・介護サービスに繋げるために必要なものは何か。外来受診を継続していた方が、症状改善のために短期入院し、退院後まもなく自宅で転倒した事例をともに、医療・介護サービス導入までの流れやポイントにつ

いて解説いただきました。近年よく耳にするロコモティブシンドロームやフレイルなどの概念にも触れながら、医学的視点と生活環境・機能の視点から介入を検討し、サービス導入時（例えばサービスの提案、主治医意見書の作成、サービス担当者会議等の際）に主治医（かかり



上図3点 清水氏の発表スライドより抜粋

つけ医）として意識されていることなどを、清水氏の豊富なご経験からお話いただきました。また、地域の特性に応じた医療実践の重要性も強調されました。

参加者との意見交換では「多くの情報に翻弄される受療者を正しく導くのもかかりつけ医の役割」、「メディアはきちんと情報を精査して正しい情報を伝えるべき」、

「受療者の意識を変えていくことも重要」、「急性期治療の長期的な結果は地域のかかりつけ医のフォローによっても左右される」、「財源確保が難しいことを理由に何でも削減するのではなく、無駄を省きつつも必要な医療を必要なものだけ提供する、また、財源確保に向けた方策も講じるべき」等の意見が挙げられました。

2. 在宅医療から医療経済を考えるー訪問診療の医療経済

弓野 大 氏（ゆみのハートクリニック）

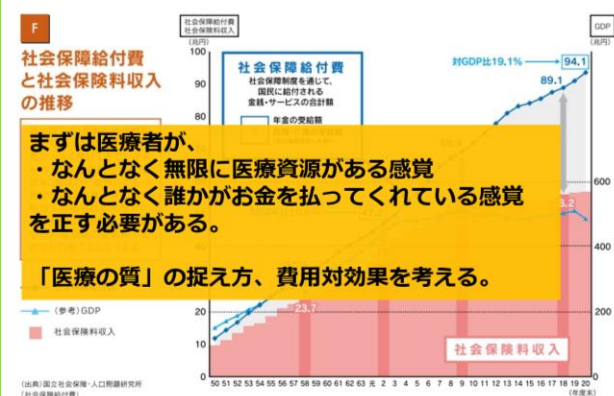


はじめに東京エリアを中心とした在宅医療の現状について、末期心不全を含む循環器領域の患者・家族の目線から、ご紹介がありました。心臓病の仕組みからその治療方法の解説、および疾病予防で重要な点についてご説明いただきました。

社会や国民の経済負担の実態を背景に医療提供者として疑問に感じること、さらに患者・家族の意見などをご紹介されました。社会保障費が大変な状況にあるなか、過剰と過保護な医療を改めていくことができないか、論点を示されました。特に、その背景にあるものとして、不適切な経済要因などを挙げられました。また、地域医療および介護支援の枠組みの概要と苦労されるもの、特に意思疎通と意思決定の難しさを指摘されました。

今後、我が国の医療制度を持続させるには、共同意思決定が重要であり、そのためにエビデンス（効能があるものや経済的に見合うものなど）の充実を図るべきであると述べられました。

社会保障費の増加：ワニの口



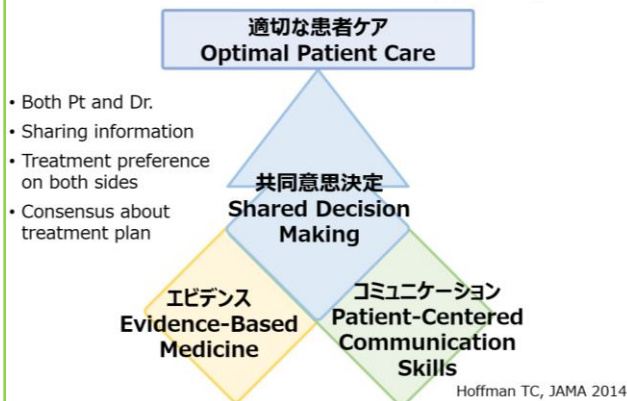
過剰と過保護な医療介護

- 医師側の便益
- 患者側の希望
- 不適切な経済要因
- 医療介護制度
- ビジネス的な圧力
- マスメディア
- 意識の欠如
- 防衛医療

• B. Rehani (January 2011). "Imaging overutilisation: Is enough being done globally?". Biomedical Imaging and Intervention Journal

• Hurley, R. (2014). "Can doctors reduce harmful medical overuse worldwide?". BMJ

共同意思決定 Shared Decision Making (SDM)



上図3点 弓野氏の発表スライドより抜粋



平成29年度受保連総会シンポジウムのお知らせ

日時：平成29年8月26日（土）14時15分～16時15分（開場14時）※資料代1千円

会場：AP東京丸の内（千代田区丸の内1丁目1－3、日本生命丸の内ガーデンタワー3階 BCルーム）

平成29年度 受保連 総会シンポジウム

医療イノベーションの受益と負担を考える

● プログラム構成 ●

1. オープニング

最近の報道などに思うこと： 榊原靖夫 理事

2. 講演セッション

座長：村上 晶 先生（順天堂大学）

(1) 医療政策や研究開発を支える意義とは

- ・ テーマ：難病対策の政策動向について
- ・ 講 師：田中 彰子 先生（厚生労働省）
- （コメンテータ：宮崎 詩子 氏）

(2) 医療技術の臨床経済的な価値評価とは

- ・ テーマ：難治性ネフローゼ症候群に対する分子標的薬の価値について
- ・ 講 師：田倉 智之 先生（東京大学）
- （コメンテータ：西田 博 氏）

(3) 社会貢献が期待される診療システムとは

- ・ テーマ：腎移植医療の社会経済的な意義について
- ・ 講 師：相川 厚 先生（東邦大学）
- （コメンテータ：山田 隆司 氏）

(4) 総合討論

- ・ 話題提供：現役世代の目線、命を支えているもの（鈴木 敦秋 先生）

3. クロージング

患者・家族として気づいたこと： 斎藤幸枝 理事



執筆・編集者 川本祐子 宮崎詩子 田倉智之

一般社団法人 受療者医療保険学術連合会 広報委員会

【問い合わせ先】 ※2017年3月6日に事務所が移転しました

一般社団法人 受療者医療保険学術連合会（受保連）

Japan Socioeconomics Association of Patient and Provider (SAPP)

〒104-0061 東京都中央区銀座6-13-16 銀座Wallビル5階UCF501

TEL：03-6869-6581 FAX：03-3502-1412

Email：sapp_se1@sapph.jp 公式サイト：http://www.sapph.jp/

